

株式分割バブルとライブドア・ショック

大阪大学大学院 高阪勇毅

本論文では、2001年から2005年にわが国において観測された株式分割バブルがその後の制度改正だけではなく、ライブドア・ショックによる投資家の投資態度の変化によっても崩壊したことを検証する。まず、2005年までの株式分割銘柄の分割発表日から効力発生日までの異常収益率から分割銘柄の株価の高騰が制度的要因だけではなく、制度以外の要因によっても上昇していることを明らかにした。そして、制度以外の要因による異常収益率を2005年までの期間と2006年以降の期間で比較し、2006年以降には制度以外の要因による株価の上昇が抑制されていることを発見した。このことから、2006年1月の制度改正と同時期に発生したライブドア・ショックによってもバブルが崩壊と判断している。また、分割発表後の異常収益率の回帰分析から、制度的要因の株価への正の影響とライブドア・ショックによる負の影響の頑健性を確認した。以上より、制度的要因による株価の上昇とライブドア・ショックによる分割銘柄に対するイメージの悪化があったといえる。